

学習活動や部活動中 体罰を容認する雰囲気はありませんか。

授業中の生徒指導の一環、部活動中の失敗の罰、気合いを入れる、勝つために等の理由で体罰が許される雰囲気が学校にありますか。体罰は絶対に許されない行為であることを認識しましょう。

授業や部活動の場でこのようなことはありませんか？

その他にもこんな声が…

■限度を超えた厳しい指導が行われている。休憩や水分補給も十分ではなく健康面や安全面での配慮にかけない。

■授業で失敗したり、ふざけたりする児童生徒に、手や足を出してしまう。

■負傷や体調が悪いときにきちんとした処置をせず、活動を続けさせる。

■調子が悪い、気合いが入っていない等の理由で人権を傷つけるような暴言を言う。

暴言は言葉の暴力です。

■宿泊遠征などの夜、引率の先生は生徒を見てくれているのだろうか。

■指導中に体への接触があったり、肩もみをさせたりすることを生徒は嫌がっている。

■週休日や長期休業中の活動で顧問がつかずに生徒だけで活動している時間がある。

実態を把握し、校内研修等で確認し、体罰防止に向けた取組を推進しましょう。

「信頼される教職員であるために」～不祥事防止資料を活用してください。

※学習指導や部活動に対する児童生徒、保護者、地域の期待や要望は様々です。だからこそ学校としての方針や体制をきちんと整えておくことが必要です。小中学校には多くの若い教職員が毎年採用されています。各学校で授業や部活動での望ましい指導について確認しましょう。(今年度5月に発行した「ズームインNo.3」では、「部活動の運営」について取り上げています。)